

夏休み 理科 自由研究の手引き

その3 標本の作り方－植物編－

佐渡市立理科教育センター

7 標本はなんのためにつくるの？

植物の観察に出かけたときに、その場では名前がわからなかったり、生えている場所によって形や大きさがちがっていたりすることがあります。くわしく調べるためには、そのような植物を採集して、ルーペなどを使って観察し、くらべてみるのが大切です。そのための研究材料が標本です。

採集してきた植物は、そのままではしおれてしまい、花や実が落ちたり、カビが生えたりします。それを防ぐためにおしば標本にします。おしば標本は、注意を守ってつくれば、100年たってもそのままの姿で、自分だけでなく、多くの人の役に立つ研究材料になります。

標本は、地域の自然を科学的に記録する、たったひとつの手段です。



8 テーマをきめよう！

植物を採集するときは、最初にテーマを決めておくことが大切です。身近な場所にも、たくさんの植物があるので、住んでいる地域をじっくり観察してみましょう。山や森、自然公園などでは、植物をとってはいけない場所もあるので、分からない時は理科センターに聞いてください。

夏休みの限られた期間だけでは、テーマに沿った標本を作り上げることはできません。まずは、自分で行ける身近な場所で、ワクワクするテーマを見つけましょう。

テーマの例

- ・「〇〇地区のつる植物 -春から秋-」
- ・「強い侵入者道ばたの帰化植物」
- ・「〇〇町の海岸植物 -春・夏-」
- ・「〇〇市〇〇地区の休耕田の植物」
- ・「〇〇市〇〇地区のイネ科の植物」
- ・「〇〇山の薬効がある植物」
- ・「〇〇海岸春～夏の海藻 -月ごとに見る変化-」



9 植物採集のすすめかた

大きなものや花の美しいものばかりに気を取られず、小さいものや目立たないものにも気をつけましょう。

採集する前に生えている状態をよく観察し、必要なことをメモし、写真を撮っておきます。

草本の場合、葉と花(実)がついたものを根ごと採集します。(保護の必要な植物では、根を残します。)

樹木の場合は、葉と花(実)がついた枝をハサミで切り取ります。このとき標本にすることを考えて適当な長さに切ります。シダ類は、胞子のついているものを根ごと採集します。

標本は、約 30×40cm(半分に折った新聞の大きさ)の決められた大きさでつくります。

生きていた姿が伝わるような、多くの特徴がみられる標本にしましょう。



10 台紙への貼りかた、ラベルの書きかた

大型の植物は、切り分けて2枚の標本にします。小型の植物は、新聞紙半ページに入る数をめやすに数本採集します。台紙には、気づいたことを書き込んだり、落ちた種を貼り付けたり、写真を貼っても良いです。

“標本の価値はラベルで決まる”とされています。ラベルは、“いつ、どこで、だれが採ったか”という、採集者しかわからない情報を正確に伝えるためのものです。おしぼ標本は、ラベルを入れてはじめて、世界中に通用する標本へと生まれ変わります。



※ 植物以外の標本も、これを参考に作りましょう。

おしぼ標本のつくりかた

1. 植物をとる

よく観察して、元気に見えるものを選びます。必要なら根だけとりまわす。



むくくと色や形が変わってしまうので、花の色やにおいなど、気づいたことをメモしましょう！

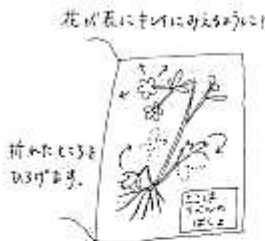
2. きれいにする

根っこはきれいに洗って落とします。



5. 形をととのえる

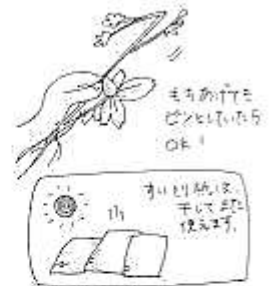
半日〜1日押ししたら、花や葉っぱをきれいに乾かす手入れをします。



このときすいとりの紙もとりかえます。ほぞり紙はとりかえせん。

6. カビないようにかわかす

1日1回、すいとり紙をとりかえます。1週間くらいで、完全にかわいたら完成。



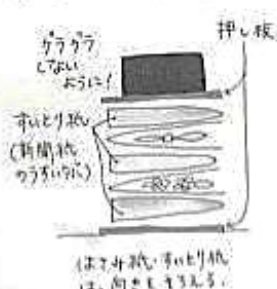
3. 新聞紙(はさみ紙)にはさむ

表にいつ、どこでとったかマジックで書いておきます。



4. おもしをのせて押す

植物をかわかすすいとり紙は、新聞紙(3〜4枚〜1日分)を使います。



7. ラベルを書く

いつ、どこでとったかを書きます。とったとき気づいたことも大切です。いっしょに書きこみます。



【1】名前しらす
標本ができあがったら、ゆっくり乾燥せしめたり、くわしい人にみせたりでかまいません。

8. 台紙にはる

細く切ってつくった紙のテープと水のりでしっかりはります。



【2】水貼りのテープでもOK
画材屋さんで売っている水貼りテープ(水にぬらして使うテープ)も利用できます。

